

## 今月のKYT（危険予知トレーニング）

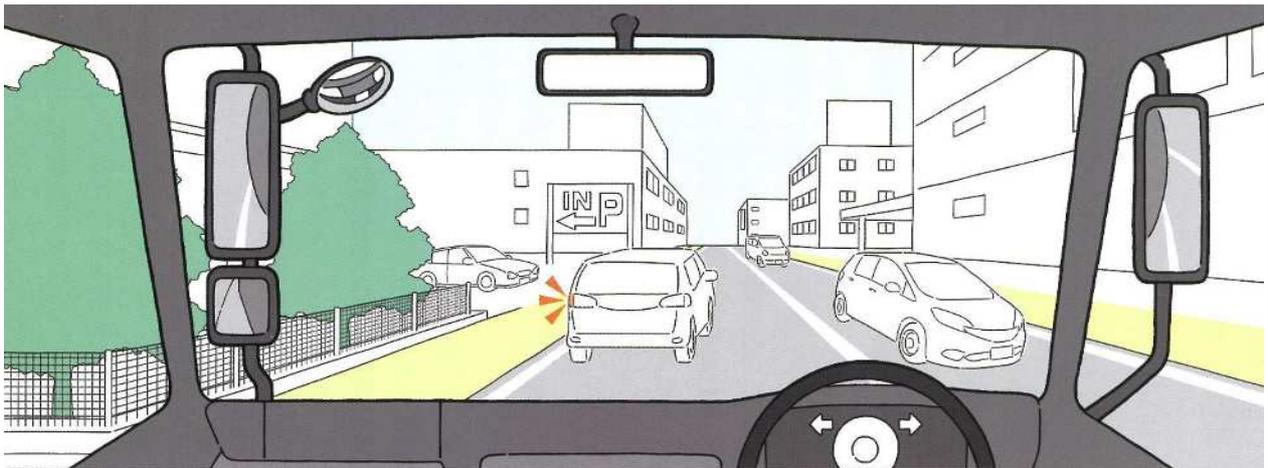
### ◆ 配送のため、片側1車線の道路を走行しています。

- 昼間、時速40kmで走行しており、道路の両側には店舗が並んでいます。
- 前車は店舗の駐車場手前で「左折ウインカー」を出して減速しました。
- 自車は、このまま進んで行きたいのですが・・・。

【解説は次ページ】

下記のKYTトレーニングを実施し、自己の危険予知能力を高めましょう！

**Q** どんな危険が潜んでおり  
どんな運転をする必要がありますか？



◎ 予想される危険と、どんな運転をする必要があるかを記入してください。

氏名 \_\_\_\_\_

1 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

2 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

3 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

## このような危険が!



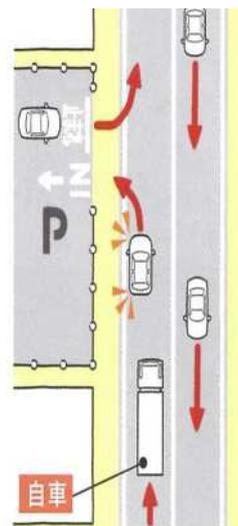
### 前車への追突の危険

- ・店舗から出る車を優先し、前車が停車すると追突する恐れがある。
- ・「前車は左折する」との予測がはずれた時、回避行動が遅れ追突する恐れがある。



### 対向車との衝突

- ・急な回避行動により、対向車との衝突や後続車から追突される恐れがある。



## このような運転を!



### 前車や周辺からの合流車の動きに注意

- ・店舗が並ぶ道路では、道路から店舗駐車場に出入りする車両が多いことを念頭に置く。



### 危険を予測した運転

- ・自分の判断基準で他車の行動を決めつけず注意して運転をする。



### 前車と車間距離を詰めない

## トラックによる追突事故は被害が甚大に!

トラックドライバーによる直進における追突事故の人的要因として、最も多いのが「わき見(45%)」、次いで「漫然運転(23%)」、「動静不注視(22%)」です。今回の「動静不注視」とは、相手当事者を発見認識したが、具体的な危険がないことを理由に、動静に対する注視を怠ったために発生させたことを指します。

\*データは2017年~19年の累計人身事故。

KYT(危険予知訓練)は、交通場面を見て、どこに、どういう危険があるかを想像することで、危険を予測する訓練法です。

日々KYTを行い、危険感受度を高めて危険回避に役立てましょう。

※ 毎月配信しています。有効に活用し事故防止にお役立てください。